
LUCK - 9999

シェイフォン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

LUCK - 9999

【Nコード】

N8128W

【作者名】

シェイフォン

【あらすじ】

主人公の高原幸一は下校途中、車にはねられて死んだ。そして周りを悲しませた罰として実質上、異世界にある屋敷に軟禁されてしまう。

この境遇から解放されるには善行を積むしかない。幸か不幸かトラブルは向こうからやってくる。

そしてそれを解決していくうちに知るこの世界の闇。

異種族の違いによる差別、そして繰り返される戦争によって憎悪と悲鳴が渦巻くイースペリア大陸。

高原幸一はそこで一体何を考えるのか。

人物紹介（前書き）

2011/12/29更新

人物紹介

コウイチ「タカハラ

種族 人間

17歳

本編の主人公。

交通事故により死亡。死んだことによって迷惑を掛けた罪としてLUCKが-9999となり、この世界に飛ばされる。

元から受け身な性格だったが、この世界はトラブルがやってくるので、その傾向がより顕著になった。

突っ込みを入れることはあるが、基本的に怒ることはない。来る者は拒まず、去る者は追わずというスタンス。

素材と設備さえ揃えば例え核であろうと作ってしまう。ただ、そうになると設備を作らなければならず、また本人もそんなものを作る気はないので今ある設備で作れない物は諦める。

1話 始まり（前書き）

皆様の意見を参考にして新しく書き直しました。
納得して頂けると幸いです。

1話 始まり

『交通事故で死んだ享年17歳の高原幸一へ』

「は？」

何故か俺はどこか分からない部屋におり、そしてソファに腰掛けて手紙を広げていた。

『言いたいことは色々あるだろうが、まずはこの手紙を読み進めて欲しい』

手紙に先を促されるのは癪だが、その通りなので俺は文に目を走らせる。

『お前はつい先程、飲酒運転をしていたドライバーに赤信号なのに突っ込まれ、全身を強打して死亡。そこまではいいか？』

確かに俺は高校の帰り道、交差点を渡っていたはずなのだが、道路の真ん中辺りからの記憶が無い。おそらくそこではねられたのだろう。

『お前が死んだことで両親は勿論のこと、友人、学校、そして警察まで多大な迷惑をかけてしまった。ゆえに、お前は人を悲しませ、迷惑をかけてしまった罪により賽の河原の刑が妥当だ』

「おい、それはおかしいだろう！」

こっちは一方的に巻き込まれた被害者なのに、どうしてその上罰

を受けなければならないのか。まさしく泣きつ面に蜂だ。

『が、事情を鑑みるとそれはあまりに厳しすぎるのではないかと考え、お前には別の償いをしてもらうことになった』

「……それは喜んでいいのか？」

最悪のケースは免れたものの、罰を受けることに変わりはないらしい。

『そして、お前の罰は幸運が最悪になり、全ての行動が裏目に出るような刑に処した。分かりやすそうな例を挙げると、お前が何かを買おうとして外に出ると急に雨が降り、不良からカツアゲを受けた拳句殴られ、ボロボロになりながらも店に辿り着いても商品は売り切れで帰り道に財布を落とす。そして拳句の果てには犯罪者と似ているという理由で留置所に一晚過ごすことになる』

「ちょっと待て！ それは酷過ぎないか！」

『が、安心しろ。そうなるのはこの屋敷から一步外に出た時点から始まる。つまり、お前はこの屋敷に閉じ込められたわけだ』

「どこを安心しろと言うのかゆっくりと話し合いたいな」

『そして、お前がいる場所だがここは地球ではない。中世時代に剣や魔法、異種族が登場するイースペリアという世界だ』

「うん？ どういうことだ？」

『お前はもう死んだ人間だ。死んだ人間は元の世界へと戻ることが

出来ないのだ。そこは諦めるしかない』

「……もう会えないのか」

思い出すのは父さんや母さんの顔、友人との他愛のない話や、少し気になる子の笑顔。

『感傷に浸っている場合ではないぞ』

何故か手紙に怒られた。

『お前には3つの贈り物を贈る。まず1つはこの屋敷だ。敷地内において外部と接する面に道具屋が設置されているからそこで日々の糧を得るが良い。なお、最初はサービスとしてこの屋敷に設置されている納戸や倉庫には素材を一杯にしておいたぞ』

「ありがとうと言っておくべきところか？」

「2つ目にお前はこの時代において住人と話せるよう言語と、作れない物は無いよう技術と知識を与えておいた。試しに何かを想像して作ってみろ」

俺は書かれていたように、想像してみる。

「そうだな、睡眠ガスと似たようなものは作れないかな」

俺がそんなことを考えると、急に頭の中にそれを作るための素材や手順が再生された。

そしてそのまま納戸から草を数種類か選んで頭の中に浮かんだ通

りに作ってみる。

「……この甘い匂いはクロロホルム？」

瓶に入った液体を見てそう評する俺。

どうして草からこんな化学薬品が作れるのか分からないが、少し吸うと咳や吐き気を催すことからクロロホルムで間違いないだろう……何で俺はこんな知識を知っているんだ？

『それも私が与えたものだ』

「そうなのかよ……」

俺は手紙を読んでいるはずなのに、会話をしていると錯覚するのは何故だろう。

『そして、最後の贈り物だが。お前の行動次第でLUCKが変動することだ。善行を積むとLUCKが上がり、悪業を行うと下がる。上を向いてLUCKと念じて見るとよい』

書いてあるままに念じると視線の先に『LUCK - 9999』という文字が浮かび上がっていた。

『それはお前しか見えないものだ。この世界に住んでいる者は地球と同じく、ステータスが数値化されることはないから誤解するなよ』

つまり油断すれば子供にでも殺されるということだろう。

そこは現実と一緒だな。

「なあ、俺はどうやって善行を積むんだ？ 延々と道具を作り続け
て売ればいいのか？」

外に出ることはできず、ただ道具を作り続ける——それはそれで
苦痛だな。

『安心しろ、そんなことはない』

その続きは。

『何故ならトラブルは向こうからやってくるのだ。お前はただ待つ
ていれば良い』

「それはまた災難だな」

『人生もそんなものだ。トラブルというのは自分に非が無くとも訪
れるもの。さて、高原幸一よ。これから先苦難が続くと思うが、お
前なら乗り越えて見せるだろう……頑張れ』

その文字と同時に俺から最も離れた位置にある窓ガラスが破られ
て何者かが侵入してきた。

「……犬耳？」

銀色の髪を肩に切り揃え、スタイルもそれほど悪くないのだが、
何故か犬耳と尻尾が生えている。

「どうしてそんなにボロボロなんだ？」

例えるなら飢えた猛獣。擦り切れた衣服を身に纏い、頬はこけて目がギラギラと輝いている。

下手に近づけば食い殺されそうな雰囲気を漂わせていた。

「……死ね！」

犬耳娘が殺気を振りまきながら手に持った剣で斬りかかってくる。

身体能力は高いらしく、後数歩で俺の元まで辿り着きそうだ。

このままだと俺はあの犬耳娘が持った剣によって斬り殺されるだろう。が、そんなわけにはいけないので俺は先程作ったクロロホルムを床に投げつけた。

瞬間的に揮発したそれは俺が息を止めたにもかかわらず目や喉に痛みが走ったがそれだけで終わる。

俺はその程度で済んだのだが、犬耳娘はそういかなかったようだ。

犬の嗅覚は人の数千から数万倍。それに加えて不意を打たれた出来事だったので、犬耳娘はものも言わず、一瞬で昏倒した。

「やれやれ、いきなりトラブルが舞い込んできたな」

気絶した犬耳娘を睥睨しながら俺はそう呟く。

振り返れば俺は数時間前まで普通の高校生だったのだが、何かの因果によってこの世界で罪を償うことになった。

納得しているかと問われれば頷くことはできないが、納得しないからと言って辞めることはできないのなら反抗するだけ無駄。

「まあ、やるだけやってみましようかね」

先程まで読んでいた手紙が自然発火し、跡形もなくなっていくのを見た俺はそう決意した。

1話 始まり（後書き）

もうお分かりと思いますが、この犬耳娘はシヨコラです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8128w/>

LUCK - 9999

2011年12月29日01時58分発行